

3章 「主体的」とは、(再度、問う)

1 学習指導要領の「主体的」の説明

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

2 「主体的」な子供の5つの姿(東京都)

- (1) 自己決定力がある 生徒指導3原則の一つである。自分のことは、自分で決める。
- (2) 自己を表現できる 自分の考えを言葉や付箋紙やホワイトボード等を使い仲間に伝える(表現)をする。
- (3) 積極的な行動がある 自分の考えを積極的に仲間に話し、授業を盛り上げようとする。
- (4) 自己の方向付け 学び方を身に付けた上で、見通しを立て、学びを振り返るようにしていく。
- (5) 自己の興味・好奇心で動く 自分の関心事に目を向け、積極的に学びに向かう。

3 「教師主導の教え込み授業」から「子供全員活躍型」の授業への転換

(1) 子どもたちの人間関係を良くする(授業構造2層目)

授業の基本は、子ども達同士の良好な人間関係を構築することだ。「分からないことは分からない」と言える学級にする。子供と教師が協力して、安心して学べる学級風土を創る。

(2) 子どもに授業の進行を委ねる(授業構造3層目)

教師が一人で授業を行えば「楽」かもしれない。教師はそうした授業に慣れている。だが一部の子は育つが授業についていけない子が出る。子どもに授業の進行を委ねれば、子供の自己実現につながる。授業にもキャプテンを作り、授業の進行を委ねるとよい。キャプテンがいない授業は過去の授業として欲しい。

(3) 進化型学習過程スタンダードに向かう(授業構造3層目)

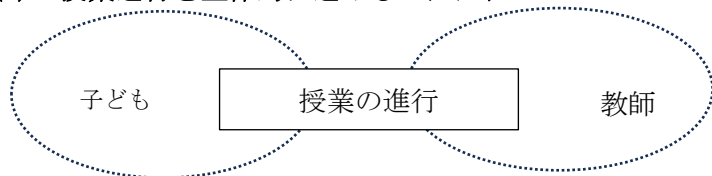
問題解決的な授業スタイルで、子ども達同士で意見や考えを交流し、内容を理解していく。教師は、子ども同士が考えをつなぎ合い、教え合い、学び合う学習集団となるように支援をしていく。

*真に「子供が主体的な授業」が出来れば、「教師のいないような授業」となる。そこが目指す授業であろう。

4 「主体的」に動くのは、子どもか教師か?(備品 292)

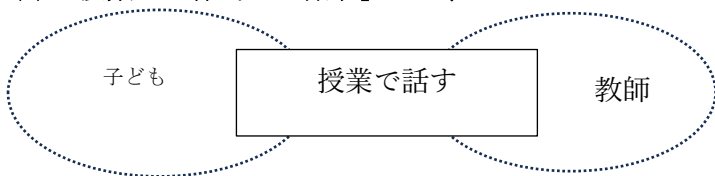
次期 2030 学習指導要領では、現学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の**完全実装**を目指している。それを受け、再度、授業や校内研修の「主体」は教師か、子どもかを考えよう。

(1) 授業進行を主体的に進めるのはだれか?



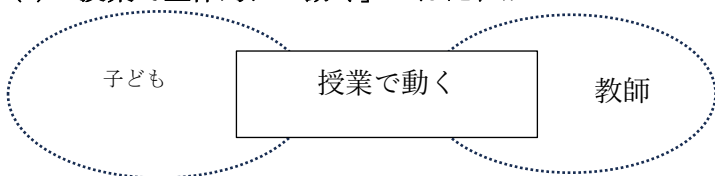
理由は?

(2) 授業で主体的に「話す」のは、どちらか?



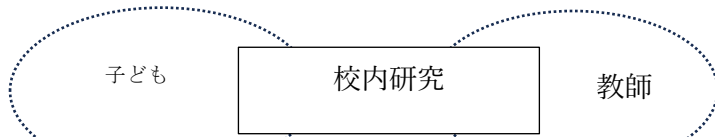
理由は?

(3) 授業で主体的に「動く」のはだれか?



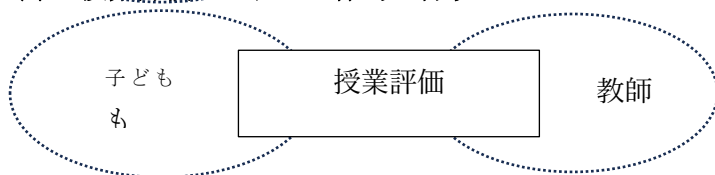
理由は?

(4) 校内研究を主体的に進めるのはだれか？



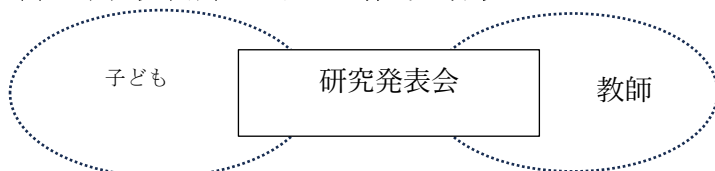
理由は？

(5) 授業評価はだれが主体的に行うのか？



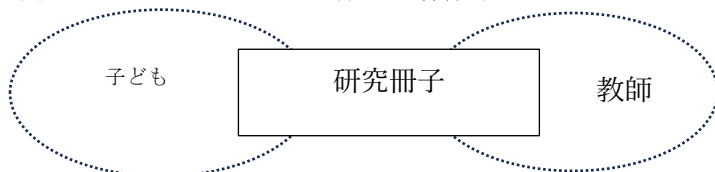
理由は？

(6) 研究発表会はだれが主体的に行うのか？



理由は？

(7) 研究冊子はだれが主体的に作成するのか？



理由は？

既存の学校常識（授業・研究）を変えることが、子どもが主体的な学校となる。当たり前だということを見直し、変えることに挑戦しよう。